

私を堕とせるのはただ一人？いや、こ

こからが恋人だし！

【第5話】

みなぎし　すい

【人物一覧表】

柊千咲：女子高生

白石彩夏（12）（現在）：社長令嬢

神谷里見：女子高生

杉園愛梨：モデル

飯田早苗（12）（現在）：女優

向崎珠江（12）：里見の幼馴染

少女

女子生徒A

女子生徒B

早苗の父

早苗の母

○女子高・廊下（朝）

生徒たちが、廊下を歩いている。

柊千咲、うつむきながら歩いている。

千咲「今日は、ちゃんと授業受けよう……」

○同・3の3教室（朝）

扉が開く。千咲、教室の中に入る。

白石彩夏「あ、おはよう」

千咲「おはよう」

千咲、4人の方を一瞬見てから、真顔のまま席に座る。

千咲、道具を出して勉強を始める。

彩夏「何してるの？」

彩夏、笑顔で千咲に話しかける。

千咲「勉強」

千咲、真顔で答える。

彩夏、寂しそうな表情になり、

彩夏「そつか……」

ぽつりと答える。

彩夏、千咲にぎゅっと抱きつく。

彩夏「ごめんね」

千咲「ううん、いいの。間違つてはないから」

彩夏「でも、たとえ間違つてなかつたとしても、人を傷つけるような言い方は間違つてる。まあ、わたし自身、早苗を傷つけちゃつてるんだけどね」

※ ※ ※

(フラッシュ)

飯田早苗、涙目になる。

※ ※ ※

彩夏「それでも、前に進むしかないんだけど」

千咲「でも」

彩夏M「すっかり自信なくしちゃつてる……

これで早苗を嫌いになつたりしないけどさ、

早苗、もうちよつと優しくしてあげてもいいのに」

早苗「彩夏、そういう話はあたしのいないところでして」

彩夏「あ、ごめん」

彩夏M「困ったなあ。ここで千咲ちゃん連れ

てどつかに行けば早苗が泣くし、千咲を慰めなかつたら千咲が」

彩夏、困り顔になる。

神谷里見、杉園愛梨をちらつと見て、直後に悶々とする。

里見 「つ、ああもう！ 愛梨！ ちよっと来

い！」

愛梨 「え？」

里見、愛梨の腕を引っ張る。

○ 同・屋上（朝）

愛梨と里見の2人つきり。

里見 「時間ねえから手短に言う！ あいつら

仲直りさせつぞおおえ！」

愛梨 「でも、なんでわたし」

里見 「だあもう！ お前はあいつらが大事じ

やねえのか！」

里見、声を荒げる。

愛梨 「あ、大事、だよ」

里見 「お前のことは気に食わねえけどよ、あ

いつらがあんななつてんのだけはもつと氣に食わねえ！　あいつら3人の問題をあたし1人でなんとかできる方法がわかんねえ！　だからお前しかいねえんだよ！　友達のあたしらが言わなきや意味ねえだろおおえ！　あいつらが好きならお前も協力しあがれ！

里見、肩で呼吸する。

愛梨「あ、でも、足手まといになつたらごめんね」

里見「ああもう！　お前が謝る時間無駄なんだよ！　とにかく作戦考えつぞ！」

愛梨「あ、うん……」

里見M「ちっくしょ、なんであたし、こんなやつに協力頼んでんだよおおつえ！」

○ 同

授業中。

里見と愛梨、スマホをいじつている。

○ 同・トイレ

彩夏と早苗、トイレ中。

スマホの通知が鳴る。

早苗 「誰から？ まさか、柊じゃないでしょ
うね」

彩夏 「ううん、里見ちゃんから。なんか2人
で話したいっぽい、LINEで」

早苗 「それならいいわ」

○ 同・3の3教室

千咲、勉強している。

千咲 「2人大丈夫かな？ 超怖い⋮⋮今もい
ないし、超胃が痛むよ⋮⋮」

彩夏 「ああ、なんでか知らないけど2人って
仲悪いからね。2人にも、いつか仲良くし
てほしいな」

彩夏と早苗、千咲の近くにいる。

千咲 M 「そつか、みんなまだ知らないんだ。
つてか今更だけど、なんで友達歴浅いわた
しだけ聞いてんの？」

千咲、少し手を止め、再び手を動かす。

彩夏「昼休みに勉強なんて、珍しいね」

千咲「まあね」

彩夏、千咲をなでる。

千咲「……」

早苗、千咲を睨む。

彩夏「早苗も。いつもわたしのためにがんばってくれて、ありがとうございます」

早苗「な、何よ……いつも褒めることなんてないじやない」

彩夏「あんなに敬愛敬愛って言つてくれたら、褒めたくもなつちやうでしょ。すごいったらしいの」

早苗「う、うん……」

早苗、こくりと頷く。

その様子を、教室の外からこつそり見ている里見と愛梨。

○ 同・廊下

里見と愛梨、向かい合う。

里見 「よし、悪くない反応だぜ。千咲に対し
ては言葉なしで褒めてもらつて、早苗には
言葉ありで多めに褒めてもらう。お前の思
いつきだつたけど、うまくいつてるじやね
えか。なんでこの案出したんだ」

愛梨 「えっとね、千咲ちゃんは早苗ちゃんの
こと嫌つてないけど、早苗ちゃんは千咲ち
ゃんのこと嫌つてるから。どつちも彩夏ち
ゃんが褒めてあげなきやと思つたから、そ
うするしかないかなつて」

里見、目を見開いて愛梨を見る。

里見 「お前すげえな……医者目指してるのであ
たりなんでわかんだよ」

愛梨 「いっぱい本読んだりして、人の気持ち
がわかるようにならんかったから。できる
かはわからんけど……」

里見 「なんで」

愛梨 「里見ちゃんの、おかげだよ。里見ちや
んが、友達想いだから」

里見 「お前っ！」

里見、愛梨の胸ぐらを掴む。

※ ※ ※

(フラッシュ)

斜面を落ちる珠江（12）

※ ※ ※

里見「チツ⋮⋮なんで！ なんでお前なんか
がいい子ちゃんになつてやがんだよおえ
！」

里見、頭をかきむしり、掴んだ胸ぐら
を離す。

里見、肩で息をする。

里見「いや、今はお前と言い争つてる場合じ
やねえ。目標は、早苗に千咲のいいところ
を見せることだ。あたしは千咲が好きだか
らよ、なんとしてでも仲直りさせんぞ」

愛梨「うん⋮⋮そうだね」

里見「簡単にいけばいいんだけどな」

○ 同・3の3教室

早苗、腕を組んでいる。

早苗 「何か変ね、あの2人」

早苗、少し遠くにいる里見と愛梨を見つめる。

彩夏 「そ、そ？」

早苗 「まさか。変なこと吹きこまれたんじやないでしょ？」

彩夏 M 「うわ、察しよすぎでしょ」

彩夏 「え、そんなことある？」

千咲 「あの2人に限つて、一緒に何かたくらんでるってことははないんじやない、かな」
⋮⋮

早苗 「それもそうね。って、許可もないのに
気安く話しかけないで」

千咲 「ごめんなさい⋮⋮

千咲、うつむく。

○ 同・校門

千咲、重い足取りで校門に近づく。

女子生徒 A 「またあの子いる。こんどは1人

で」

女子生徒B「前に事故にあつた子じやない？」

千咲、校門を見る。

千咲が助けた少女が、校門前に立つて
いる。

少女「あ、おねえちやん！」

千咲「あ、こら。勝手に入っちゃだめ」

千咲、少女を抱えて校門をくぐり、学
校の外へ。

女子生徒A「あれ。あの人、あの子助けた人

じやない？」

その様子を遠くから眺める早苗と彩夏。
立ち止まり、様子を見る。

千咲「（明るい声で）で、どうしたの？」お

姉さんに会いに来たの？ いいけど、あん

まり人の邪魔にはならないようにな」

千咲、しゃがんでにこつと笑う。

少女「あい」

少女、千咲の頭をなでる。

千咲「えつ」

千咲、呆然とする。

少女「よしよしだよつ」

少女、ニコニコしている。

千咲「あ、あ⋮⋮」

千咲、目に涙を浮かべ、声を漏らして泣く。

少女「かなしいのやーだ、えがおがいちばん

なんだよつ」

千咲「う、ううつ、ううつ⋮⋮」

早苗、千咲をじっと見つめる。

彩夏「早苗。わたしがする自己評価の正しさに異議はある？」

早苗「別にないけど。彩夏って自己評価はそこまで低くないとと思うわ。むしろ自分の能力を誇っているからこそ、生徒会長になつたんでしょ、そして、それは客観的事実といえる」

彩夏「正解。じゃあさ⋮⋮あの時ただ棒立ちで今あの子に何も言われないわたしより、一瞬もためらわずに飛び出した千咲の方が、そういう意味ではすごいと思わない？見

てたんだから、忘れたとは言わせないよ」

早苗 「……」

千咲、少女に頭をなでなでされている。

彩夏、にこつと笑う。

少女 「ばいばいお姉ちゃん！」

千咲 「うん、ばいばい」

千咲、涙を含んだ笑顔で手を振る。

早苗、千咲を見る。

早苗 「……ああもう！」

早苗、ずかずかと歩き出す。

早苗 「柊！」

千咲 「さ、早苗さん」

早苗 「柊。断ることは許さない。あなた、あ
たしと付き合いなさい」

千咲と彩夏、きょとんとする。

千咲、彩夏 「ええええっ！」

彩夏 「なななな、え、嘘でしょ、なななな」

彩夏、激しく動搖している。

千咲 「ひいいっ！ 絶対おかしい！ こ、殺
されるー！」

千咲、その場から逃げようとする。早

苗、千咲の腕を

早苗「バカいわないで、さあ」

早苗、千咲の腕を引っ張つてその場を去る。

彩夏「嘘でしょ……」

彩夏、立ち尽くす。表情から色が抜け
る。

○飯田宅前（夕方）

千咲と早苗、家の前にくる。

早苗「終。今日の予定」

千咲「はい？」

早苗「あなたの今日の予定を言いなさい」

千咲「しゅ、宿題？」

早苗「つまり何もなしね、まあどっちにしろ、
あたしと付き合つてもらうわよ」

千咲「あ、あのう……あたしに、の間違いで

は」

早苗「間違つてないわ。そういう意味よ」

千咲 M 「そういう意味だー！」

早苗 「さあ。恋人を家に招くのは当然よ」

千咲 M 「魔女の家だ！ 絶対魔女の家みたく
トラップ踏んで殺される！」

○飯田宅・居間（夕方）

千咲、おびえている。

2人、荷物を置く。

早苗 「柊。落ち着きなさい」

千咲 「は、はい」

千咲、震えを止める。

早苗 「はあ…：わかった、今までのことは水
に流すから、もう怯えないで。こっちを見
て」

早苗、両手で千咲の顔を包み込むよう
に触る。

千咲 M 「て、天変地異だ！ 早苗さんがこん

ななるなんて、世界が滅びてしまうう…」

早苗「彩夏も、ござかしいこと考えるものね

千咲 「え？」

早苗 「気づかなかつた？」 彩夏と里見と愛梨
が協力して、あたしの柊への好感度をあげ
ようとしていたのよ。本心だとしても、彩
夏があんなあたしにデレるなんておかしい
から」

千咲 「あ、そうなの？」

早苗 「ええ。もしかしたら、誰かのコネであ
の子も呼んだのかもね」

千咲 「そんなまさか……あの、恥ずかしいで
す」

早苗 「ああ、ごめんなさい」

早苗、手を離す。

千咲 「早苗さんが謝った」

早苗 「あ？ あたしだって謝るわよ」

千咲 M 「やつぱ怖い……」

早苗 「いえ、本当にごめんなさい」

早苗、少し笑う。

千咲 「どうしたんですか？」

早苗 「ため口でいいわ」

千咲 「さ、早苗ちゃん」

早苗「そうそう、それでいいわ。恋人とはそういうものでしょ、女子高だから別におかしくない。さあ、風呂へ行くわよ」

千咲「ふえっ？ ちよちよ、いきなり推しの女優と風呂だなんて」

早苗「恋人だもの、風呂くらいいいわよね」

千咲M「何したいんだこの人…：：読めない」

○同・風呂場（夕方）

早苗「さあ、あたしの体を好きに洗つて」

千咲「は、はい…：：好きに？」

早苗「ため口。好きには、恋人なんだから本当に好きに洗つて」

千咲「う、うん」

千咲、早苗の体を優しく洗い始める。

早苗「いい感じね、とても優しいわ。次、前」

早苗、千咲に体の前を向ける。

千咲「すごい…：：綺麗な体してま、あ、して

るね」

早苗「当然よ。役作りにあたって食事制限や

保湿とか、いろいろ頑張っているから」

早苗、千咲の胸をじっと見つめる。

千咲「あ、あのー」

早苗、自分の胸を見つめる。

早苗「柊、胸大きいのね。形はまずまずとい
つたところかしら。これで彩夏を籠絡した
の?」

千咲M「人のおっぱい勝手に批評し始めたぞ
この人……」

千咲「し、してないよ。っていうか、わたし
はまだお友達だから、気持ちが変わるものまで
はお友達でいさせてって言つた」

早苗「そう」

千咲M「反応薄つ！」

早苗「とにかく、よくできたわね。優しい手
つきで、肌を傷つけないとても素晴らしい
なでかたよ」

千咲「あ、ありがとう……」

早苗「柊」

千咲「ひあんつ！」

早苗の手が、千咲の胸に触れている。

千咲 M 「嘘でしょ？ 推しの女優におっぱい触られてる！ こんな幸せすぎるつてばあ！」

早苗 「キスしなさい」

早苗、千咲に顔を近づける。

早苗 「さあ、早く。恋人とはそういうものでしよう」

千咲 「う、うん」

千咲、早苗の唇にキスをする。

唇が離れる。

早苗 「唇……」

千咲 M 「あ……やらかした！」

○ 同・居間（夜）

早苗の両親と早苗、千咲で食事中。

千咲、食べ終わり台所に行く。

早苗の母「何してるの？」

千咲、皿を洗い始める。

千咲 「あ、皿洗いです」

早苗の母「あら、いい子ね」

早苗「…それは本心?」

千咲「皿洗いに本心? つて聞かれてもわか
んないよ」

○同・寝室(夜)

早苗「さあ、一緒のベッドで寝るわよ」

千咲「あ、うん」

千咲M「何言われるかわからんないから全部従

おう「

早苗と千咲、一緒のベッドに寝転び、
布団をかぶつて向かい合う。

早苗「まだご機嫌取りとか考へてる?」

千咲「あ、へあつ」

早苗「正直でわかりやすいのね」

千咲「え? あ、ごめん」

早苗「まあ、その優しさと正直さは本物なの

でしようね」

千咲「…」

早苗「まったく。罪な女」

千咲「はい？」

早苗「気づいてない？　他の視線」

千咲「……？」

早苗「はあ、まあいいわ。とにかく、彩夏を泣かしたら許さないから」

千咲「それはしないよ。1回それ間違えたから、もう二度としない……：：早苗ちゃん、彩夏と仲いいんだね」

千咲M「つてか、なんて説明しよう彩夏に……：」

早苗「まあ、ね」

○（回想）白石宅・居間

早苗（12）と彩夏（12）、お絵描

きで遊んでいる。

彩夏、早苗をなでなでする。

早苗N「あたしの両親は、あたしを産んでもぐ失踪した。自分の両親について打ち明けた時、彩夏は真っ先になでなでしてくれた。今でもその感触が忘れられないの」

(回想終わり)

○飯田宅・寝室(夜)

千咲「彩夏、優しい」

早苗「ええ。だから、尊敬、敬愛してして慕つていてるの。今言った話以外にも、優しいところが彩夏にはたくさんあるわ。その彩夏が」

千咲「その彩夏が?」

早苗「あなたに惚れてしまうなんてね。あなた、きょう校門で彩夏に褒められたのよ。

自己評価が決して低くない彩夏に。あなたは泣いて聞こえてなかつたでしようけど」

千咲「っていうか、今更だけど気づいてたんだね……いや待って、ならなんでわたして恋人に彩夏への返事を実質保留にしてるのに、彩夏が可哀想じや……」

早苗「そうね。申し訳なく思つていいし、後

で謝るつもりよ」

千咲「早苗ちゃん……」

2人、じつと見つめあう。

早苗 「あなた、人間関係の距離感変よ」

千咲 「えつ？」